全 員 協 議 会 記 録

開会年月日	令和6年6月10日
開会時刻	午前10時59分
閉会時刻	午前11時20分
出席議員名	三野泰嗣 川口 浩 大西要一 宮崎 誠 久保 真
	中村 功 井村貴志 上村和生 北村 勝 楠木宏彦
	鈴木豊司 野崎隆太 吉井詩子 野口佳子 岡田善行
	福井輝夫 辻 孝記 吉岡勝裕 品川幸久 藤原清史
	西山則夫 浜口和久 宿 典泰
欠席委員名	なし
署名者	—
担当書記	奥野進司
協議議題	1 高向小俣線ほか1線整備事業の三重県との協定等について
説明員	市長、藤本副市長、福井副市長、都市整備部長、都市整備部次長
	基盤整備課長、総務部長、総務部参事（法制執務担当）
	総務部参事（職員管理担当）、総務課長、職員課副参事
	情報戦略局長、情報戦略局次長、財政課長、資産経営部長、契約課長

開会 午前10時59分

◎議長（藤原清史君）

ただいまから全員協議会を開会いたします。

本日の出席者は全員でありますので、会議は成立いたしております。

御協議願います案件は、「高向小俣線ほか1線整備事業の三重県との協定等について」であります。

議事の進め方につきましては、議長に御一任を願いたいと思いますが御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

◎議長（藤原清史君）

御異議なしと認めます。そのように取り計らいさせていただきます。

【高向小俣線ほか1線整備事業の三重県との協定等について】

◎議長（藤原清史君）

それでは「高向小俣線ほか1線整備事業の三重県との協定等について」を御協議願います。

当局の説明を求めます。

市長。

●鈴木市長

大変失礼いたしました。

本日は大変お忙しい中、全員協議会を開催いただきまして、誠にありがとうございます。

このたびは、本来、地方自治法及び条例に基づき業務を遂行すべきところ、その解釈を誤り、このような事態を招いてしまったことについて、深くおわびを申し上げます。大変申し訳ありませんでした。

高向小俣線ほか1線整備事業における新しい宮川橋の架設につきましては、専門的な知識と経験が必要であるため、三重県と橋梁の架け替え事業の協定及びこれに基づく橋梁の下部工事の受託事業契約を締結しておりますが、この契約が工事の請負であるかの解釈に誤りがあり、地方自治法の定める所定の手続を経ずに進めておりました。

法令を遵守すべき行政としまして大変申し訳なく思っており、皆様に深くおわびを申し上げます。

今後は市政に対する信頼回復ができるよう、職員一丸となりまして適正な事務執行に取り組んでいきますので、御理解を賜りますようお願いを申し上げます。

詳細につきましては、担当から説明をさせていただきます。

どうぞよろしく願いいたします。

●荒木都市整備部長

それでは、「高向小俣線ほか1線整備事業の三重県との協定等について」御説明申し上

げます。

資料1を御覧ください。

まず、1の高向小俣線における宮川橋架替事業の三重県との契約状況でございます。

表の①では、橋の整備に関して、調査設計から工事完了までを委託する協定を令和2年3月に三重県と締結しており、②はその変更協定を締結したものです。

表③から⑥については、橋脚のP1からP5までの橋梁下部工事の受託事業契約であり、③がP1、P2の工事の当初契約で、⑤がその変更契約、また、④がP3からP5までの工事の当初契約で、⑥がその変更契約です。

次に、2の「今後の対応」についてでございます。

地方自治法第96条第1項第5号及び伊勢市議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条では、議決が必要な基準を、契約の金額及び種類が予定価格1億5,000万円以上の工事または製造の請負と規定しております。

このことから、先ほど御説明いたしました三重県との協定及び受託事業契約は委託契約であるため、議決が必要な契約に該当しないものと考えておりました。

しかしながら、法令では、解釈しがたいところについて、所管の行政機関が回答した事例集である行政実例によりますと、市が行うべき工事を県に委託する場合の契約も工事の請負に含むとされておりました。このことから、表の6つの契約については、議会の議決が必要であると解釈され、地方自治法の定める所定の手続を経ていない状況となっております。このため、これまで三重県と契約しております、表①、②の協定と③、④及び⑥の受託事業契約の5つの契約について、追認を求める議案を6月の市議会定例会に提出させていただきます。

また、併せて今後の宮川橋架替事業に必要となる費用に係る債務負担行為を設定する補正予算案の御審議を賜りたいと考えております。

なお、表⑤の契約は、③の受託事業契約の契約金額を変更するものであり、当初契約金額から5%以内の金額の変更であることから、地方自治法第180条第1項の規定による議決により、指定を受けた専決処分事項に該当するため、③の受託事業契約について、追認の議決を得られたならば、その後、速やかに専決処分をすることとしたいと考えています。

また、2ページ目には、先ほど説明させていただいた契約に関する法律及び条例を記載しておりますので、御高覧ください。

最後に、このような事態を招いたことにつきまして、深くおわび申し上げます。今後は、事務手続のチェック体制の強化を含め、再発防止に万全を期すとともに、適正な事務処理に努めてまいります。

以上、「高向小俣線ほか1線整備事業の三重県との協定等について」御説明申し上げます。よろしくお願いいたします。

◎藤原清史議長

ただいまの説明に対しまして、御発言はありますか。

20番、品川議員。

○品川幸久議員

私も産建の委員なんで、細部について聞き足りないところをちょっとお聞きしたいんですけど、これ4年たつとるわけなんですけど、これなぜ分かったんでしょうか、教えてください。

◎藤原清史議長
契約課長。

●竹澤契約課長

当該内容につきましては、令和6年3月下旬に契約に合議がありました変更契約の手続におきまして、その中で、担当職員が疑問に思いまして、改めて内容を確認しましたところ、行政実例の存在が認められまして、行政実例をさらに確認しましたところ、市が行う工事を県に委託する場合でも、当該委託契約は工事の請負に該当するということございましてため、条例で定める金額を超えるときには、議会の議決を要するものと見解があることが判明いたしましたところでございます。以上でございます。

◎藤原清史議長
品川議員。

○品川幸久議員

その担当職員が賢かったとは言いませんけど、逆に今まで何をやってきたんかなと、そのようにしか思えませんね。

それとですね、これだけ大きな事業になってくると、総務のほう、財政、契約のほうも、この問題を全部、把握して進めてきたもんやと思うんですけど、その点は何で今まで分からなかったんでしょうか、教えてください。

◎藤原清史議長
総務部長。

●西山総務部長

議員の御指摘、もつとものことと反省をいたしておるところでございます。

事業を進めていく中でいろいろ私どももチェック、気がつき、気づき、そういった機会があったかというふうに思っております。

ただ解釈違いというふうなところで、漫然と、そういった、議決が要らない案件であるというふうに全体的に思っていたというふうなところが実情でございます。以上です。

◎藤原清史議長
品川議員。

○品川幸久議員

この話の中でね、私もいろんな方から電話をいただいて、特に4階のOBの方からとかもありますけど、「一体何をしとったんやと、しっかりせんか」というようなことを言われました。

ただ、今回のこの議案については、もう当然、進められとるものであって、途中であって、当然、県にも、県議会のほうにも非常に御迷惑をかけておるということで、ここの部分については、私どもも粛々と進めなあかんと、このように思っております。

ただ、市長も申し上げていただいたように、ここには、私ども議会は憲法93条で設置が決められて、それが地方自治法の下で動いとるわけですけど、この地方自治法の96条の中に、議会の権限というところがあって、非常に傷つけられたと。これを一言も物申さずに進めていくということは、もう議会の存在自体が要らないということになるので、ここであえて、苦言を申させていただきます。

私、昨年議長を務めさせてもらったときには、市長にも、職員の皆さんにも、議会には丁寧なやっってくださいということで、非常に丁寧にやっただきました。

ただ、今回の話は、市長は議会軽視なんて思っていないと思いますが、結果的に、議会被軽視する話になってしまった。私は非常に残念だと思っております。

自治法の96条、権限っていうところは、議会の一番肝でありまして、当然、私どもは二元代表制というところで、市長当局とやっとるわけなんで、この二元代表制をここで一言も申さなかったら、二元代表制なんて語る資格は私はないと思っております。

ですので、当然、市長が議長のほうにお話に行ったときには、議長も立候補されたとき、副議長も同じですけど、二元代表制を高らかに訴えられとるんで、非常に厳しい叱責を受けたと、私はそのように思っております。

ですから、最後にもうこれ一言だけ、市長も謝っていただいたんで文句は言いたくないんですけど、ただ、私どもとしては、厳しく、厳しく、叱責を申し上げたい、叱りおきたい、このように思っております。以上です。

◎藤原清史議長

他に御発言はありませんか。

宿議員。

○宿典泰議員

私もですね、産業建設委員会の中でいろいろと説明を受けながら、現在までできています。

全員協議会を開いて、こういった機会の中で、全議員がこのことにきちっと向き合うということは非常にいいことだなと、こんなことを思っておるんですけど、結果からして、これも、初期の契約からも4年間たってしまうとる。

これのことについて、先ほど品川議員から、何で気づかんだんやというような話があっずと延び延びになっったわけで、実際は、もしかしたら、この下部工事についての受託事業は、もう完成した後でも分からんだのと違うかなというような気がしてなりません。そのあたりの経過について、済んだことだからということで収めるということにはならんと思うんですけど、もう一度その経過の中で、どのような状況があったのかを教えてください。

◎藤原清史議長
都市整備部長。

●荒木都市整備部長

経過について、先ほども契約課長のほうからもお話させていただきましたが、4年前のところから解釈を間違っておって、全く気づいておらなかったところの中で、令和6年3月末の、表でいうところの6番の変更契約、その合議をする中で気づいたというところでございます。

非常にお粗末なことで反省をしておるところでございます。

その後もどういった対応を、この事例自体がなかなか、私どもも経験値もなく分からなかったところで、いろいろ議論をして、これは正さなければならない案件だということに遅まきながら気づいたところで、今回、報告させていただいたところでございます。

当然のことながら、今後このようなことのないように、連携を深めて取り組んでまいりたいと思います。以上です。

◎藤原清史議長
宿議員。

○宿典泰議員

先ほどの説明の中でチェック体制の整備ということが出ましたけれど、以前やっておったチェック体制がこういう状況の中で、今後どのようなチェック体制の整備をやっていくのか、そのあたりを教えてください。

◎藤原清史議長
都市整備部長。

●荒木都市整備部長

チェックと言いますと、例えばこういった事案について物事の決裁を取るために、所管課がまず決裁をして、関係課に合議を回してチェックするというところでございます。

それは基本としてございますが、そこで、特にこういう議決、議会関連のところ、そういったところについては、必ず総務、あるいはお金に関することでしたら財政当局に合議を回す、あるいはその以前に協議をするというような形を、全庁的に構築していく所存でございます。以上です。

◎藤原清史議長
宿委員。

○宿典泰議員

事務的なことで、それはいかんやないかというような状況には、聞いとる限りではない

んだとは思うんですよね。

ここまできて、令和2年からですからね。令和2年の契約から現在まで4年間の中で、もう全然こういった事態が想像もできなかったということで、現在まできとるわけですから、そうすると、議会軽視をしながらここまで進んできたことに対して、どのような態度で、どのような形で済ましていくのかということ、ぜひお聞きをしたい。

このことについて謝罪されるのはもうこれは当たり前の話なんですけれども、それ以上にどういった形でこれ収めていくのかなというようにことが非常に気になります。そのあたりのことをもう一度お答えください。

◎藤原清史議長
都市整備部長。

●荒木都市整備部長

まずは、先ほど来おわび申し上げさせていただいたところですし、今後こういったことを起こさないようにするということがございます。

まず、今、議決をいただいていないという状況でございますので、これについては、適正な形になるように、追認をお願いするところでございます。以上です。

◎藤原清史議長
宿議員。

○宿典泰議員

6点の中で1点だけ産業建設委員会の中で申し上げましたけれども、もうここまできとる事態の中で、遡って5%以内やから、市長の専決処分に当たるんやということは、僕はどうもまだ、今、じっくり胸の中で落ちません。

というのはやはり、議会の議決というのはすごく大きい話だと思うんですよね。その中からこれだけを取り出して専決処分をするなんていうことが、それも今後の話じゃないんです。もう以前に発注した業務の中の話をしておるんですから、そのことってというのはどうなんかなと。

私は議会の議決を得るといのは物すごい大きい作業だとは思いますが、いやそうではないんだと。以前に発注をして、議決ももらってない仕事の中の、これは5%に当たるから専決処分に当たって、これ自体は、ここで言われる180条の規定によって、こういうことになるということについては、まだまだ、ちょっと納得がいきません。

今後、5%の契約が出るということでは、それはもう専決していただいたらどうですかねということになると思うんですけれど、今の今まで、全部議決をしていないということに対しては、若干その辺りのことを私は道理としては、あんまりこう、腹に落ちないというのか、そういうことですのでもう一度、全員協議会の場ですので、お答えをください。

◎藤原清史議長
都市整備部長。

●荒木都市整備部長

先ほどの専決の案件、この資料の表でいきますと5番のところでございます。

決して5%以内だから軽いものというか、そういったような認識ではございません。ただ、先ほど来御説明させていただいていますように、地方自治法第180条第1項の規定によって、この事項については、議会の権限を離れていくと。

それで公共団体の長というふうに移るということでされておりますので、この契約自体を有効にするために、こういった専決事項ということで手続をさせていただきたいと考えております。以上です。

◎藤原清史議長

宿議員。

○宿典泰議員

私たちがなかなか行政実例というのを読むような機会がなくて、今回、行政実例の中でということであったんですけど、この6点のこういった状況というのは多分行政実例の中にもないのではないかなと思うんですよね。

だから行政実例にのっとってっていうのも、いかがかなということだけ申し上げておきたいと思います。

今回のこの件については、どういういきさつの中でっていうのは、今までの説明の中でありましたから、それを受けて、あとどのような態度で議会のほうへの態度を示すのかということだけ気になっておりますので、そういったことをどのような形で収めていくんかということを見守っていきたい、こんなふうに思います。以上です。

◎藤原清史議長

他に御発言はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎藤原清史議長

御発言もないようですので、本件につきましてはこの程度で終わります。

以上で御協議願います案件は終わりました。

これをもちまして全員協議会を閉会いたします。

開会 午前11時20分